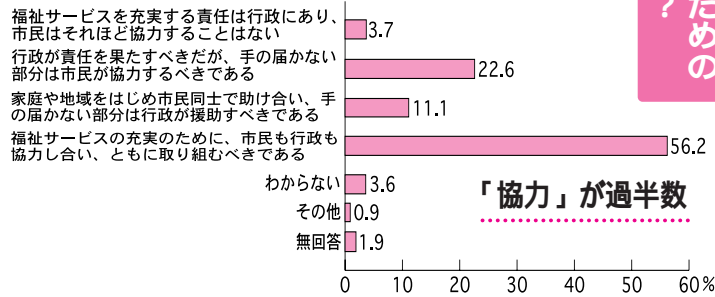


みんなで考えます、新しい福祉のかたち

「福祉サービスの充実のために、市民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである」という人が半数を超えました。

地域福祉を進めていくうえで重要なテーマである「協働(市民と行政との協力)への期待ができる」と考えられます。

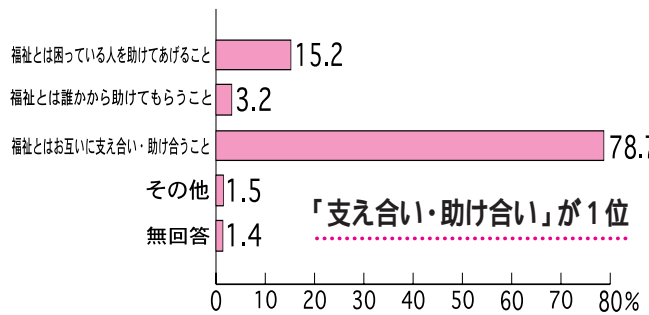


福祉サービス充実のための市民と行政の関係は？

「お互いに支え合い・助け合うことだと思っている」が七八・七%と圧倒的に多く、「福祉=支え合い・助け合い」を共通意識として持っていると考えられます。

地域福祉を推進していくうえで、必ずしも悲観的な社会状態ではないといえます。

地域の中にある「支え合い」の芽をどうふくらませていくかがこれからの課題です。



アンケートの調査方法と実施状況

15歳以上の市民から5,200人を無作為に抽出し、郵送方式により、昨年(2011年)の8月5日から8月31日までを調査期間として実施しました。回答率は49.2%(回答者2,559人)でした。



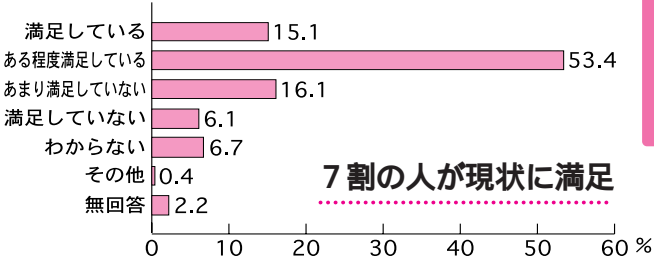
地域福祉計画の策定に向けて市民アンケートの結果から



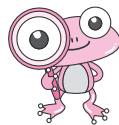
新しい住宅地や郊外型商店街の影響などもあり、私たちのまちの様子や生活環境がだいぶ変わってきています。

このような状況で地域に住む人同士の連携も薄くなってきたのも事実です。

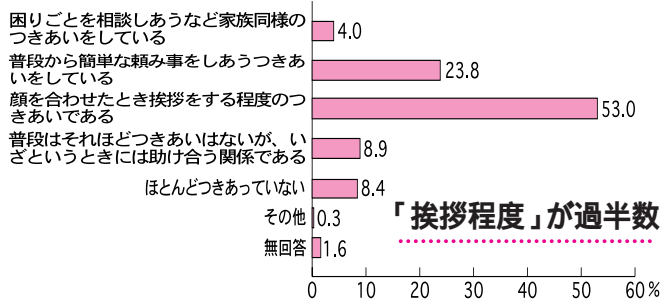
しかし、「ある程度満足している」と「満足している」を合わせると七割近くになります。少子化や高齢化の問題にはやや不安はありつつも、今の地域社会に満足している人も多いようです。



今住んでいる地域社会に満足していますか？



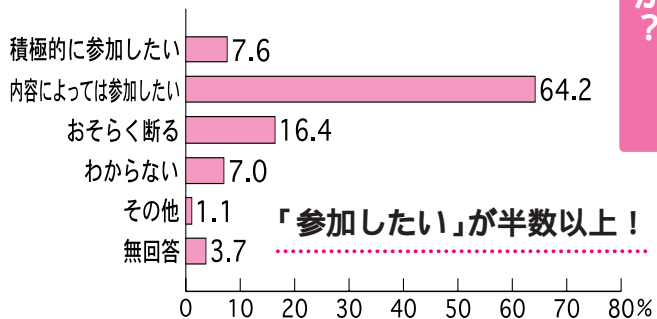
「顔を合わせたとき挨拶をする程度につきあいである」が過半数を占めており、隣近所との深い付き合いをしている人は少なく、地域でのつながりが希薄化していることが明らかになっています。



近所のおつきあいは？

「内容によっては参加したい」と思っている人が全体の六割を超えており、きっかけさえあれば、地域活動への参加数は増えると考えられます。

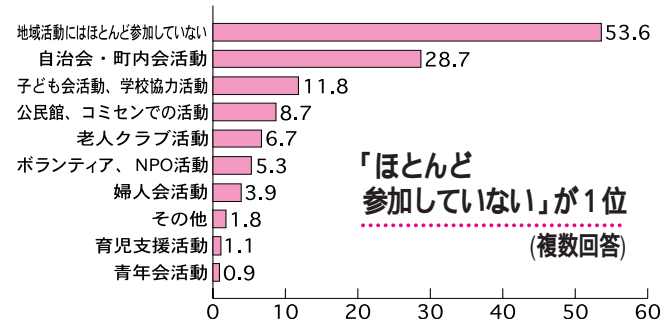
少子化や高齢化には不安はあるけれども、ある程度今の地域社会に満足しているかたが多いという状況の中で、みんなで支え合い、ふれあいのある地域をつくるためには、どうしたらいいのかがこれからの大きな課題といえます。



地域活動があった場合、あなたはどうしますか？

「地域活動にはほとんど参加していない」が第一位となっており、この結果からも地域でのつながりが希薄化していることが明らかになっています。

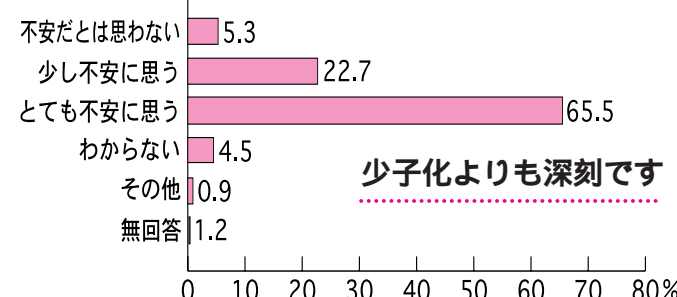
ちなみに、地域活動にほとんど参加していないかたの理由として、「どんな活動があるのかわからない」が上位に入っており、情報さえあれば地域活動への参加してみたいという人が多くいることがわかりました。



どんな地域活動に参加していますか？

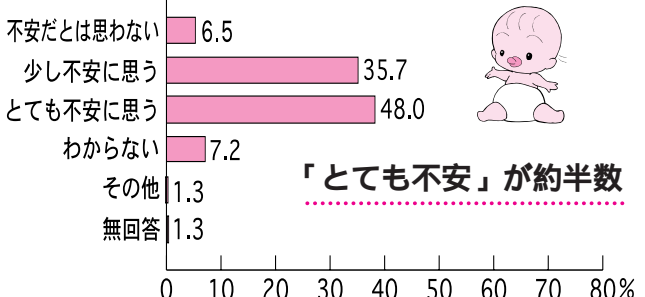
「とても不安に思う」が四八%、「少し不安に思う」が三五・七%で、大多数のかたが少子化に不安を感じています。

関連して、少子化対策に何が必要かという質問では、一位「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費、教育費などの経済的支援」、二位「職場の子育て支援体制の充実、産休・育児休暇の確保・充実」、三位「延長保育、休日保育、一時保育、病後時保育など、多様な保育サービスの充実」が上位を占めました。



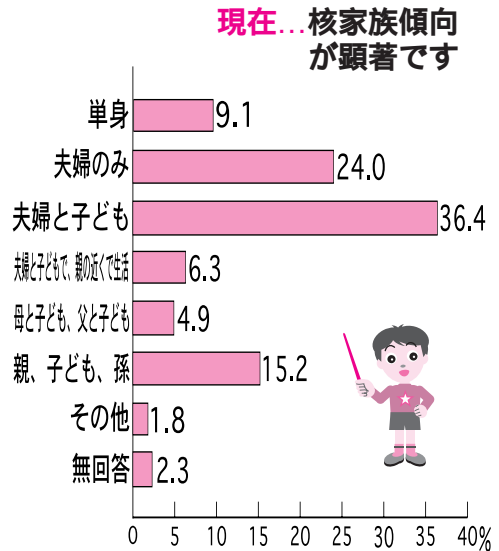
高齢化についての考えは？

関連して、少子化対策に何が必要かという質問では、一位「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費、教育費などの経済的支援」、二位「職場の子育て支援体制の充実、産休・育児休暇の確保・充実」、三位「延長保育、休日保育、一時保育、病後時保育など、多様な保育サービスの充実」が上位を占めました。



あなたの家族形態は？

「親、子ども、孫」という三世代以上の家族が十五・二%しかなく、圧倒的に核家族傾向であることがわかります。



少子化についての考えは？

